



JAPAN ASSOCIATION FOR THE
IMPROVEMENT OF CONDITIONS OF
WOMEN SCIENTISTS

JAICOWS Newsletter

No.47 (2025.12.1 発行)

会長ご挨拶

井野瀬 久美恵

会員の皆様、お変わりございませんか？本年度のニューズレター発行が大変に遅れましたこと、どうかご容赦ください。3月にご講演いただいた岩渕功一先生のお話を思い返しながら、会長メッセージをお届けいたします。

岩渕先生のご講演は、「多様性/ダイバーシティの推進とは何か」の基本に立ち返り、その本質を熟慮するうえで、とても刺激的なものでした。ジェンダーやLGBTQ、障碍などを中心に、従来の差別意識を払拭、包含することによって生まれる多様性とは何なのか。その推進が、既存の構造的な差異を見えづらくしたり、新たな排除をもたらしたりしている側面はないだろうか。多様に存在する「差異」が差別構造に絡めとられず、「平等に包含」されることは可能だろうか。そのためには何が必要なのか。

こうした問いは、理工系の大学や学部を中心に注目を集める「女子枠」という制度を連想させます。「女子枠」の設定は理工系学生の多様化をめざしたのですが、それが男子学生にとって不利、不平等だと批判が絶えないのが現状です。

大学入試において「女子枠」という制度が設けられた理由は明快です。日本は、理工系分野において、大学入学者に占める女性の割合がOECD加盟国のなかで最低水準（2023年のOECD調査で約19%、特に工学系は約16%）で最下位の状態が続いています。その背景には、理工系に対するジェンダーバイアスの存在とともに、幼少期以降の科学経験の不足、保護者の意識、ロールモデルの欠如などが指摘されています。「女子は理系が苦手」という「無意識の偏見/アンコンシャス・バイアス」が作用しているのです。実際にはジェンダーによる学力差はほとんどないのに、です*。

しかも、「無意識の偏見」は社会構造と深く結びついているため、時間が経てば自然に解消されることはなく、その払拭のためには、発想の転換や思い切った施策が必要です。そうやって編み出されたのが「女子枠」です。

かくのごとく目的が明確なのに、なぜ「女子枠」は論議を呼ぶのでしょうか。それは、女子学生の増加で日本が上記最下位を脱すること、すなわち科学や学術における多様性の確保が、日本の科学・学術の向上とどう結びついているか、見えづらいうちにほかなりません。「女子枠」は「優秀な男子学生」の足かせになる・・・？ いやいや、男子学生個人としての「優秀さ」が問題になるのは、科学や学術における多様性が十分に確保されたあとではないのか？

今問うべきは、ジェンダーをめぐる「無意識の偏見」が、他の差別構造とどう結びついているかであり、それらの解消のためにはどういう連携があり得るかの模索ではないでしょうか。となると、それはJAICOWSの存立そのものとも関わってきます。

JAICOWSは、学会会議会員・連携会員の女性数増加を支え、科学・学術におけるジェンダー平等を推進してきました。その努力は、日本の科学・学術の質をどう変化させたのでしょうか。この問い自体は、JAICOWS設立30年事業として、本年度の活動計画で構想していたことでした。実現できなかったこの重要な問いを、引き続き来年度に向けて考え続けたいと思います。

皆様のご意見をぜひお寄せください。

* 横山広美『なぜ女性に理系が少ないのか』幻冬舎新書、2022年；江森百花・川崎莉音『なぜ地方女子は東大を目指さないのか』光文社新書、2024年など、このテーマは日本社会の幅広い関心と呼んでいる。

多様性を問い続ける 一差異との共生に向けた協働一

岩淵功一（シドニー工科大学 名誉客員教授）

さまざまな差異を平等に包含して共生することは世界各地で緊要な課題となっており、日本も決して例外ではない。しかし、多様性・ダーバシティ推進の議論はそれがもたらすとされる生産性やイノベーションによる社会を豊かにする力が強調されることで、多様性をめぐる構造化された差別と周縁化を是正する取り組みが蔑ろにされがちになっていないだろうか。本講演では、エスニシティ・移民を中心にしながらもジェンダー、LGBTQなどさまざまな差異の平等な包含に向けた日本社会の根源的な課題を検討して、求められている実践や学びとはどういうものなのかを考察した。

最初に私自身が抱いてきた多様性奨励への違和感について説明しながら、そのきっかけとなった「多様性は私たちを豊かにする」という語りの問題について検討した。多様性は社会を豊かにし、国家の調和と繁栄の重要な構成要素となっていると多文化社会を称揚する語りは、現実の差別・不平等を隠すとともに、特定の移民・エスニック文化を許容・寛容することで成立している。誰がどのような文化を認めて寛容するのか。寛容する主体と寛容される客体という不均衡な関係性が固定化されていないか。多様性を寛容して称賛することはいつでも暴力的な排斥や不寛容へと転じることと同じコインの両面となっていないか。そこには差異の包摂と排除の力学が作動しているのである。

より最近では、経済面での豊かさが強調されており、多様性を奨励するのが重要なのは、いろいろな考えや価値観が建設的にぶつかりあってイノベーションや新たな価値創造をもたらすからだとする見方が盛んとなっている。生産性を強調して多様性を奨励することは、「役に立つ」類の多様性だけを重視して、そうではないものを蔑ろにしてはいないだろうか。多様性奨励の目的が経済的な生産性に還元されてしまうことで、新たな格差や不平等をもたらしたり、差異をめぐる差別や不平等の問題への取り組みが後景化されたりしてしまうことに注意すべきだ。

このように多様性を肯定的に捉える語りは、多様性の対照とされる差異を否定的なものとして認識することを伴っている。社会・企業に資する「多様性」に対して中心に挑戦的で厄介な「差異」が二項対立化されて捉えられることで、差別や不平等解消という「居心地の悪い」問題が見えなくされたり、あたかもそれはすでに解消された問題であるかのように捉えられたり、あるいは、不平等・差別解消に向けた構造的革の取り組みが表層的なものにとどまったりしてしまうのである。

多様性の肯定的な語りが孕む問題は日本でも共有されているが、多様性の奨励やD E Iが欧米やオーストラリアほど発展されていない日本社会にはより根源的な問題が横たわっている。移民・エスニックマイノリティについていえば、＜日本人－外国人＞という認識枠組みが社会における多様性の現実を矮小化されており、歴史的に構造化・制度化された差異をめぐる差別や不平等の現状が社会の深刻な問題として共有されていない。さらには、国レベルでの多文化社会統合政策や差別禁止法整備が未だ発展されておらず、代わりに差別解消は「心の問題」として強調されている。後者の問題はL G B T Qや障害者などの場合にも当てはまる日本の根源的な問題といえるものだ。

表層的な多様性の奨励を越えて差異をめぐる不平等と差別を解消することに向けては、できる限り多くの人たちを巻き込んで、自分ごととして取り組んでいく社会的想像力の醸成が欠かせない。多様な差異にまつわる構造化された不公平や生きづらさは異なる立場にありながらも同じ社会に住む以上、誰もが関わっている。その解消に向けては自分の問題とされない経験についても自分ごととして支援することは自らも解放することにつながる。さまざまな構造化された差別や生きづらさはどこかで関わり合っており、他者に立ちはだかる問題の解消は、結局は自らもより生きやすくなるからだ。このような認識を共有すべく、共感・共関、特権の学び捨て・学びひらき、インターセクショナルな連帯・協賛を育む対話的な学びの展開が多様性奨励の実践において求められている。

反多様性の動きが高まる中で、誰もがより生きやすくなる社会の構築に向けて批判的に問題を考えながら共に取り組み続けていくことがますます重要となっている。多くの問題を抱えながらも多様性の奨励について問い続けることが必要なのは、さまざまな差異をめぐる差別や生きづらさの問題を繋げて取り組むことを促すからである。個別事例に応じた精緻な差別や生きづらさの考察は必要であるが、それを土台としながらも多様な主体の間の協働を促すことは社会変革に向けて欠かせない。ジェンダー問題を中心に組みながらも、JAICOWSが横断的でインターセクショナルな連携を深めて社会変革を率先する役割を積極的に担っていくことが期待される。

参考文献：岩渕功一（編著）『多様性との対話：ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社、2021年）

2024年度JAICOWS総会議事録

日時：2025年3月2日（日）10：00～10：30

会場：オンライン（zoom）

会長挨拶、開会宣言、議長選出

<議事>

1. 2024年度（2024/1/1-12/31）活動報告

来田事務局長より以下の活動報告がなされ、承認された。

1. 役員会の開催（メール稟議）
2. 講演会の開催（2024年3月24日）
講師：松本悠子先生（中央大学名誉教授）
『ジェンダー事典（2024）丸善出版』編集を終えて
3. ニュースレターVol.45の発行（2024年9月）
4. 内閣府男女共同参画会議への参画
5. メールマガジンによる会員への通信
（お知らせ）
3/6, 3/20, 3/23, 4/2, 4/5, 9/18, 10/1, 12/11 計8回
（内閣府情報展開）
6/4, 6/8, 6/18, 8/1, 8/31, 9/12, 10/18, 11/8, 11/18, 12/25 計10回

2. 2024年度（2024/1/1-12/31）決算報告

来田事務局長より、2024年度決算報告案が示された。この決算報告案について、浅倉監事による監査報告書が示され、原案が承認された。なお、年会費を納入している会員や総会に出席する会員が少ないことに関し、総会議事録の即事配信や総会への出欠提出を求めるなどの方法により、参画を促す提案が出され、事務局が対応することが確認された。

（承認された決算報告書は3頁参照）

3. 2025年度（2025/1/1-12/31）活動計画

井野瀬会長より、以下の活動計画案が示され、承認された。

1. 総会の開催（2025/3/2）
2. 役員会の開催（3回程度およびメール稟議）
3. ニュースレターの発行（1～2回）
4. 講演会・シンポジウム等の開催（3/2他）
5. メールマガジンによる会員への通信
6. 内閣府男女共同参画連絡会議への参画
7. その他

4. 2024年度（2024/1/1-12/31）予算案

来田事務局長より決算報告案が示され、承認された。

（承認された予算案は4頁参照）

議長解任、閉会宣言

（書記 来田享子）

< 2024年度決算報告書（2024年1月1日～12月31日） >



JAICOWS 2024年度 決算書(2024年1月1日～12月31日)

2025年1月31日現在

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2024年度予算	2024年度決算	予算比	備考
会費	300,000	135,000	-165,000	2024年度納入者24名、未納者61名 (参考:2023年度納入者33名)
利子	0	0	0	
寄付金等	0	18,300	18,300	「非常勤講師は今」購入費(500円)、内閣 府会議出席謝金(17,800円)
前年度繰越金	738,644	738,644	0	
収入合計	1,038,644	891,944	-146,700	

2. 支出の部

勘定科目	2024年度予算	2024年度決算	残高(決算-予算)	備考
通信費	10,000	0	-10,000	
Newsletter印刷費	0	0	0	44号はWeb上で発信
Newsletter発送費	0	0	0	44号はWeb上で発信
行事費	50,000	20,000	-30,000	2月講演会講演者への謝礼
会議費	10,000	0	-10,000	Web会議のため
事務費	80,000	66,000	-14,000	HPサーバー維持費・保守費(66000円)
学会業務委託費	120,000	120,000	0	事務局幹事への事務作業代
消耗品	10,000	0	-10,000	
振込手数料	1,000	330	-670	ゆうちょダイレクト送金165円×2
予備費	19,000	0	-19,000	
小計(支出科目計)	300,000	206,330	-93,670	
次年度繰越金	738,644	685,614	-53,030	
支出合計	1,038,644	891,944	-146,700	

郵便振込口座残高 629,243

手持ち金 56,371

685,614

<2025年度予算案（2025年1月1日～12月31日）>

JAICOWS 2025年度 予算書(案)2025年1月1日～12月31日

2025年1月31日現在

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2024年度予算	2025年度予算	前年比	備考
前年度年会費未払い分の回収	305,000	-	-	2025年1月の未納者61名分
会費	300,000	300,000	0	前年度実績により60名で計算
利子	0	0	0	
寄付金他	0	0	0	
前年度繰越金	738,644	685,614	-53,030	
収入合計	1,343,644	985,614	-358,030	

2. 支出の部

勘定科目	2024年度予算	2025年度予算	前年比	備考
通信費	10,000	5,000	-5,000	調査用紙郵送費等
(Newsletter印刷費)	0	0	0	ウェブ化にともない不要
(Newsletter発送費)	0	0	0	同上
行事費	50,000	50,000	0	2025年講演会講師謝金等
会議費	10,000	10,000	0	講演会会場費等
事務費	80,000	80,000	0	HP管理・サーバー代(66,220円)
学会業務補助費	120,000	120,000	0	事務作業業務等謝金(1か月1万円)
消耗品	10,000	5,000	-5,000	印刷用紙、宛名シール等
振込手数料	1,000	1,000	0	2024年度実績値にもとづく
予備費	19,000	29,000	10,000	
小計	300,000	300,000	0	
次年度繰越金	1,043,644	685,614	-358,030	
支出合計	1,343,644	985,614	-358,030	

現在の役員

会長 井野瀬 久美恵
副会長 小浜 正子
事務局長 来田 享子
役員 廣瀬 眞理子
伊藤 美千穂
内藤 忍

JAICOWS事務局

(2022年度から変更しています)

〒470-0393
愛知県豊田市貝津町床立101
中京大学スポーツ科学部 来田享子研究室
Tel. 0565-46-6568
jaicows_office@jaicows.org

会費振込口座

口座名義：女性科学研究者
の環境改善に関する懇談会
郵便振替口座番号
00160-5-421146
銀行振込の場合
ゆうちょ銀行〇一九（ゼロ
イチキュウ）店
当座0421146